

2023 年

新入社員 意識調査

2023 年 6 月

挑む。超える。ともに創る。

 **プロクレアホールディングス**

URL <https://www.procrea-hd.co.jp/>

はじめに

今年も多くの新入社員が期待と不安を胸に、社会人としての第一歩を踏み出しました。

新入社員は、企業のみならず地域社会の将来を担う大切な「人財」です。今年度の新入社員は学生生活のうち、多くの時間をコロナ禍で過ごしています。急速に変化する時代に対応し、多様な価値観を身に着けて社会の一員となった新入社員の皆さまは、どのような意識を持って日々の業務に取り組んでいるのでしょうか。

本調査は、1977(昭和52)年から実施している青森銀行から継承したもので、新入社員の意識や考え方について調査し、その結果をまとめて公表しています。企業経営に携わる方々におかれましても、これからの人材育成の参考にしていただければ幸いに存じます。

最後になりますが、本調査にご協力いただきました新入社員の方々に厚くお礼申し上げます。

調査要領

- 方法 アンケート方式
- 対象者 県内事業所 2023年度新入社員 89名
- 実施時期 2023年4～5月
- 回答者内訳

1. 学卒別

区分	男性	女性	回答しない	合計
高校・高専	9	16	0	25
専門学校・短大	1	2	2	5
大学・大学院	36	22	1	59
合計	46	40	3	89

2. 出身学部・学科

区分	男性	女性	回答しない	合計
文系	32	30	1	63
理系	10	8	2	20
その他・不明	4	2	0	6
合計	46	40	3	89

※本調査は、プロクレアホールディングスのホームページ(<https://www.procrea-hd.co.jp/>)にて公開しております。

【本件に関する照会先】

あおもり創生パートナーズ 株式会社

担当：今井

Tel 017-718-3161

目 次

調査結果の概要	1
1. 就職にあたって	
(1)会社を選ぶ際の情報収集方法	3
(2)就職活動でアピールした自分の強み	4
(3)会社を選ぶ際に重視した項目	5
2. 社会人として	
(1)お金を得ること以外で何のために働くのか	6
(2)社会人として大切なもの	7
3. 仕事と働き方について	
(1)昇給・昇格の基準について	8
(2)仕事に対する考え方	
①「会社・仕事」と「プライベート」のどちらを優先するか	9
②「ゼネラリスト」と「スペシャリスト」のどちらを志向するか ..	10
③転職・独立について	11
④副業・兼業について	12
4. 上司について	
(1)上司に求めるもの	13
5. 自分自身のことについて	
(1)仕事をするに当たり強化したいこと	14
(2)自分をPRする言葉	15
6. 社会人となり、改めて感じること（自由回答）	16

調査結果の概要

1. 就職にあたって

- 会社選ぶ際の情報収集の方法は「就職・転職サイト」、「会社説明会」、「企業の公式ホームページ」の割合が高い。男性に比べ、女性の方が多様な手段で情報収集を行う傾向がある。
- 就職活動でアピールした自分の強みは「コミュニケーション能力」、「素直さ」、「チャレンジ精神」などの順となった。
- 会社を選ぶ際に重視した項目は「働いてみたい業種・職種である」がトップとなった。企業規模や給与水準よりも、福利厚生面や社会貢献度を重視する傾向にある。

2. 社会人として

- お金を得ること以外で働く動機は、「やりがいや充実感を得るため」や「社会の役に立つため」が上位を占めた。男性は、仕事を通じて自身を磨くとともに承認を求める傾向が強く、女性は、社会の役に立つ仕事を通じてやりがいを得たい思いが強い。
- 社会人として大切なものは「責任感」と「コミュニケーション能力」などが上位を占めた。前回調査より「自己啓発・向上意欲」の割合が上昇した。男女別では、女性で「責任感」の割合が突出して高く、女性の社会進出が進む現状を受けて、将来を見据えて緊張感をもって働こうとする人の割合が増えたとみられる。

3. 仕事と働き方について

- 昇給・昇格の基準は、「能力・業績と年功序列の両方が取り入れられた型」の割合が6割に迫り、トップとなった。
- 「会社・仕事」と「プライベート」の優先度は、「会社・仕事優先型」が5割を超えた。
- 幅広い業務をこなす「ゼネラリスト」志向と、専門分野に秀でた「スペシャリスト」志向の割合をみると、「スペシャリスト」志向がやや強まった。
- 将来、「転職・独立」を志向する割合は25%弱で、「終身雇用」志向は75%を超えた。男女別では、男性の方が「転職・独立」志向が強い。
- 「副業・兼業」を志向する割合は概ね半数となった。男女別では、男性の方が「副業・兼業」志向が強い。

4. 上司について

○新入社員が上司に求めるものは、「信頼感」、「指導力」、「優しさ」が上位となった。男女別では、男性の方が「指導力」などリーダーシップ面を、女性の方が「信頼感」や「優しさ」、「包容力」などメンタル面の支えを求める傾向がみられた。

5. 自分自身のことについて

- 仕事をするに当たり強化したいことは、「専門知識・技術」が5割を超えてトップとなった。次いで「コミュニケーション能力」が5割弱となり、他の項目を大きく引き離れた。
- 自分をPRする言葉は、堅実さをPRする「まじめ」、「努力家」、「誠実」が上位となった。一方で、従前上位にあった「明るい」が大きく順位を下げたほか、「体力」は皆無となった。

1. 就職にあたって

(1) 会社を選ぶ際の情報収集方法

- ・全体では「就職・転職サイト」、「会社説明会」、「企業の公式ホームページ」の割合が高い
- ・男性に比べ、女性の方が多様な手段で情報収集を行う傾向がある

今年の新入社員が、就職する会社を選ぶ際、どこから情報収集したか(当てはまるもの全て選択)について尋ねたところ、「就職・転職サイト」が 49.4%でトップとなり、「会社説明会」が 46.1%、「企業の公式ホームページ」が 42.7%などと続いた。「会社説明会」については、前回調査(2021年)から倍増となっており、合同会社説明会など、コロナ禍以前の形式での就活イベント再開の効果がうかがえた。

男女別にみると、男性は「家族・友人・先輩」の割合が女性よりも高い一方、他項目については総じて女性の方が高かった。特に、「SNS」については、男性は皆無となっており、女性の方が多様な手段で情報を収集する傾向がみられた。

学卒別にみると、高校・高専卒は「学校の教員」がトップ、次いで「会社説明会」が続く。一方、専門学校・短大卒および大学・大学院卒では、「就職・転職サイト」や「企業の公式ホームページ」が上位となった。なお、「テレビ・新聞」と「SNS」は大学・大学院卒のみとなった。

会社を選ぶ際の情報収集方法（当てはまるもの全て選択）

(単位：%)

	性別			学卒別			出身学部・学科別			合計
	男性	女性	回答しない	高校・高専	専門学校・短大	大学・大学院	文系	理系	その他	
就職・転職サイト	① 50.0	② 50.0	① 33.3	16.0	① 40.0	① 64.4	① 54.0	③ 35.0	② 50.0	① 49.4
会社説明会	② 41.3	① 55.0	0.0	② 44.0	20.0	③ 49.2	② 47.6	① 40.0	② 50.0	② 46.1
企業の公式ホームページ	③ 37.0	② 50.0	① 33.3	20.0	① 40.0	② 52.5	③ 42.9	③ 35.0	① 66.7	③ 42.7
家族・友人・先輩	30.4	25.0	① 33.3	③ 28.0	① 40.0	27.1	23.8	① 40.0	33.3	28.1
学校の教員	15.2	30.0	0.0	① 56.0	20.0	6.8	20.6	30.0	0.0	21.3
企業案内	15.2	22.5	0.0	③ 28.0	0.0	15.3	14.3	25.0	33.3	18.0
キャリアセンター・進路指導部	4.3	22.5	① 33.3	24.0	0.0	10.2	15.9	5.0	16.7	13.5
テレビ・新聞	4.3	7.5	0.0	0.0	0.0	8.5	6.3	5.0	0.0	5.6
SNS	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	8.5	7.9	0.0	0.0	5.6
その他	2.2	2.5	0.0	4.0	0.0	1.7	3.2	0.0	0.0	2.2

(2) 就職活動でアピールした自分の強み

・「コミュニケーション能力」、「素直さ」、「チャレンジ精神」などの順

就職活動でアピールした自分の強み(3項目まで選択)について尋ねたところ、「コミュニケーション能力」が42.7%でトップとなり、次いで「素直さ」が37.1%、「チャレンジ精神」が34.8%などの順となった。

男女別にみると、男性は「素直さ」、「チャレンジ精神」、「主体性」などの割合が女性に比べ高く、女性は「コミュニケーション能力」、「専門知識・技術」などの割合が比較的高い。

学卒別にみると、高校・高専卒では「チャレンジ精神」、「専門知識・技術」、専門学校・短大卒では「素直さ」、「コミュニケーション能力」、大学・大学院卒では「主体性」の割合が他に比べて高い傾向がみられた。

就職活動でアピールした自分の強み（3つまで選択）

(単位：%)

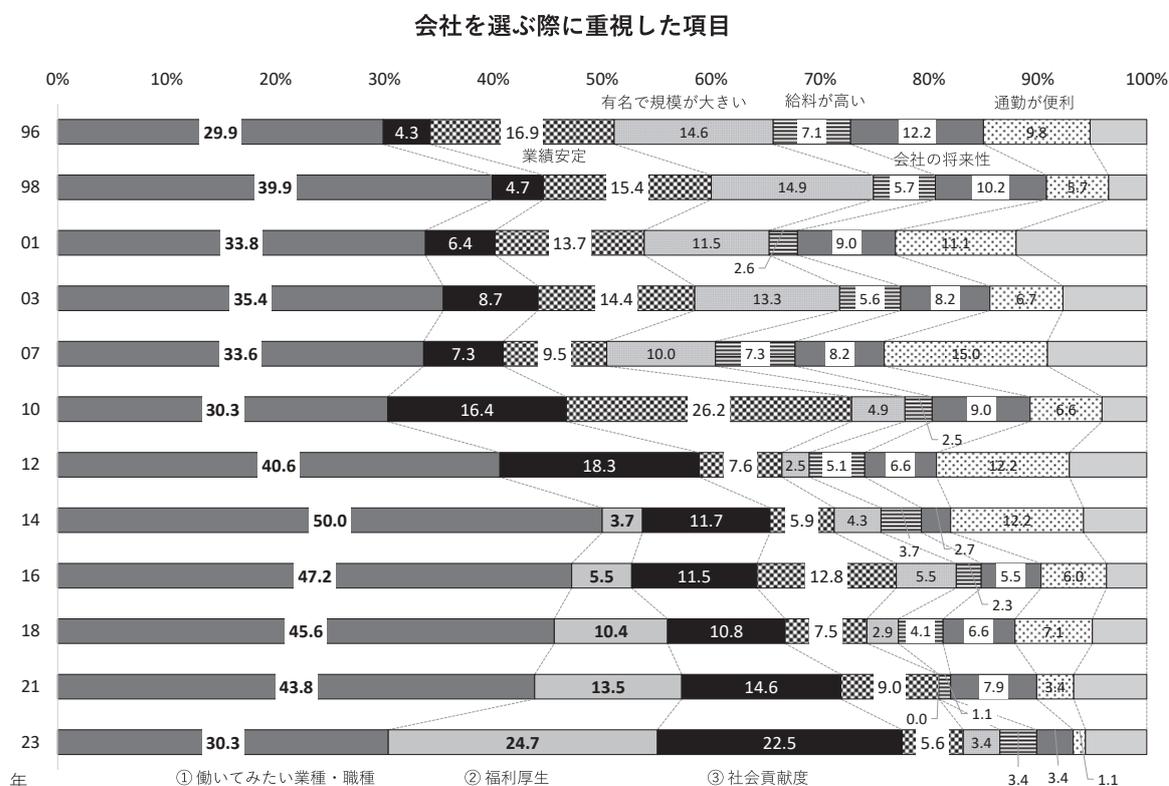
	性別			学卒別			出身学部・学科別			合計
	男性	女性	回答しない	高校・高専	専門学校・短大	大学・大学院	文系	理系	その他	
コミュニケーション能力	① 41.3	① 42.5	② 66.7	② 36.0	② 60.0	① 44.1	① 39.7	① 50.0	② 50.0	① 42.7
素直さ	② 37.0	③ 32.5	① 100.0	32.0	① 80.0	③ 35.6	① 39.7	② 30.0	33.3	② 37.1
チャレンジ精神	② 37.0	② 35.0	0.0	① 56.0	③ 40.0	25.4	③ 36.5	20.0	① 66.7	③ 34.8
主体性	32.6	22.5	0.0	8.0	0.0	② 37.3	34.9	5.0	16.7	27.0
専門知識・技術	15.2	25.0	③ 33.3	③ 32.0	20.0	15.3	20.6	15.0	33.3	20.2
学習能力（他者の経験から学ぶ力）	21.7	17.5	0.0	12.0	20.0	22.0	17.5	15.0	② 50.0	19.1
ストレス耐性	21.7	15.0	0.0	16.0	20.0	18.6	17.5	15.0	33.3	18.0
論理的思考力	17.4	10.0	0.0	12.0	0.0	15.3	11.1	③ 25.0	0.0	13.5
企画力	6.5	7.5	0.0	4.0	0.0	8.5	9.5	0.0	0.0	6.7
ITスキル	4.3	7.5	0.0	16.0	0.0	1.7	4.8	10.0	0.0	5.6
交渉力	6.5	0.0	③ 33.3	0.0	0.0	6.8	4.8	5.0	0.0	4.5
語学力	0.0	2.5	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	1.1
その他	8.7	7.5	0.0	4.0	0.0	10.2	7.9	10.0	0.0	7.9

(3) 会社を選ぶ際に重視した項目

- ・全体では「働いてみたい業種・職種である」がトップ
- ・企業規模や給与水準よりも、福利厚生面や社会貢献度を重視

会社を選ぶ際に重視した項目を尋ねたところ、「働いてみたい業種・職種である」が30.3%でトップとなり、次いで「休暇制度など福利厚生面の充実度」が24.7%、「社会貢献度が高い」が22.5%などとなった。上位3項目合計で全体の8割弱を占めており、他項目に大きく差をつける結果となった。

長期的な推移をみると、若年層においても働き方改革やSDGsなどへの関心が高まっており、企業規模や給与水準よりも、福利厚生面や社会貢献度を重要視する傾向が強まっていることがうかがわれる。



(単位: %)

	性別			学卒別			出身学部・学科別			合計
	男性	女性	回答しない	高校・高専	専門学校・短大	大学・大学院	文系	理系	その他	
働いてみたい業種・職種である	① 37.0	② 25.0	0.0	① 40.0	② 20.0	② 27.1	① 31.7	① 35.0	0.0	① 30.3
休暇制度など福利厚生面の充実度	③ 13.0	① 37.5	① 33.3	② 36.0	① 60.0	③ 16.9	③ 22.2	② 30.0	① 33.3	② 24.7
社会的貢献度が高い	② 19.6	② 25.0	① 33.3	③ 12.0	0.0	① 28.8	② 25.4	③ 10.0	① 33.3	③ 22.5
業績が安定している	8.7	2.5	0.0	0.0	0.0	8.5	7.9	0.0	0.0	5.6
有名な会社で規模も大きい	4.3	2.5	0.0	4.0	0.0	3.4	1.6	③ 10.0	0.0	3.4
給料が高い	2.2	5.0	0.0	4.0	0.0	3.4	1.6	5.0	③ 16.7	3.4
会社に将来性がある	6.5	0.0	0.0	4.0	0.0	3.4	3.2	0.0	③ 16.7	3.4
通勤に便利である	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	1.7	1.6	0.0	0.0	1.1
その他	8.7	0.0	33.3	0.0	20.0	6.8	4.8	10.0	0.0	5.6

2. 社会人として

(1) お金を得ること以外で何のために働くのか

・「やりがいや充実感を得るため」や「社会の役に立つため」が上位

お金を得ること以外で働くことの目的(3項目まで選択)を尋ねたところ、「やりがいや充実感を得るため」と「社会の役に立つため」が半数程度を占めた。次いで、「自分の能力を高めるため」などが続いた。

男女別にみると、男性は「自分の能力を高めるため」、「周囲に認められ、地位を得るため」の割合が女性に比べて高く、女性は「やりがいや充実感を得るため」、「社会の役に立つため」、「お客さまの役に立つため」の割合が比較的高い。男性は、仕事を通じて自身を磨くとともに承認を求める傾向が強く、一方、女性は、社会の役に立つ仕事を通じてやりがいを得たい思いが強いといえよう。

なお、学卒別にみると、高校・高専卒、大学・大学院卒は「やりがいや充実感を得るため」、専門学校・短大卒は、「社会の役に立つため」を挙げる割合が比較的高い。

働く目的（お金を得ること以外） 3つまで選択

(単位：%)

	性別			学卒別			出身学部・学科別			合計
	男性	女性	回答しない	高校・高専	専門学校・短大	大学・大学院	文系	理系	その他	
やりがいや充実感を得るため	① 47.8	① 67.5	① 33.3	① 72.0	0.0	① 54.2	① 58.7	① 45.0	① 66.7	① 56.2
社会の役に立つため	② 45.7	② 55.0	0.0	36.0	① 60.0	② 52.5	② 47.6	① 45.0	① 66.7	② 48.3
自分の能力を高めるため	② 45.7	③ 45.0	0.0	② 48.0	② 20.0	③ 44.1	③ 44.4	② 40.0	③ 50.0	③ 43.8
お客さまの役に立つため	21.7	37.5	0.0	③ 40.0	② 20.0	23.7	30.2	20.0	33.3	28.1
新しいことに挑戦するため	21.7	25.0	0.0	28.0	0.0	22.0	20.6	20.0	③ 50.0	22.5
親を安心させるため	17.4	22.5	0.0	12.0	② 20.0	22.0	20.6	15.0	16.7	19.1
会社の役に立つため	10.9	20.0	0.0	20.0	0.0	13.6	19.0	5.0	0.0	14.6
周囲に認められ、地位を得るため	13.0	5.0	0.0	8.0	0.0	10.2	9.5	5.0	16.7	9.0
人脈を広めるため	6.5	2.5	0.0	0.0	0.0	6.8	6.3	0.0	0.0	4.5
その他	4.3	2.5	66.7	4.0	40.0	3.4	3.2	15.0	0.0	5.6

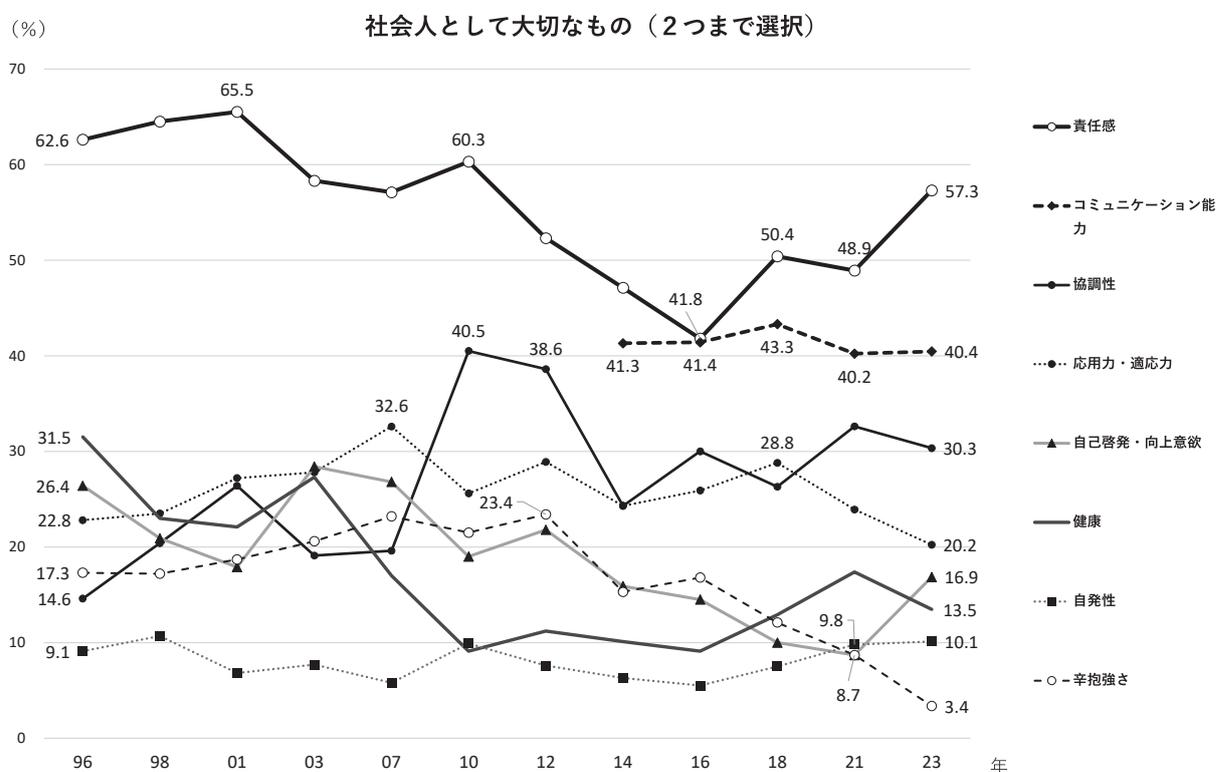
(2) 社会人として大切なもの

- ・「責任感」、「コミュニケーション能力」を重視
- ・「自己啓発・向上意欲」が上昇

社会人として大切なもの(2項目まで選択)は、「責任感」がトップとなった。次いで「コミュニケーション能力」、「協調性」などと続いた。1981年以降、毎回トップに挙げられている「責任感」は、長期的に減少傾向が続いていたが、近年は増加傾向に転じている。一方、「辛抱強さ」については長期的に減少傾向が続いている。

今回調査では、「自己啓発・向上意欲」が伸びており、社会人生活を生き抜いていく上で、自己研鑽の重要性を感じる層が増えていることがうかがえる。

男女別では、女性で「責任感」の割合が突出して高く、女性の社会進出が進む現状を受けて、将来を見据えて緊張感をもって働こうとする人の割合が増えたとみられる。



(単位：%)

	性別			学卒別			出身学部・学科別			合計
	男性	女性	回答しない	高校・高専	専門学校・短大	大学・大学院	文系	理系	その他	
責任感	① 45.7	① 72.5	① 33.3	① 52.0	② 40.0	① 61.0	① 57.1	① 60.0	① 50.0	① 57.3
コミュニケーション能力	① 45.7	② 35.0	① 33.3	② 40.0	② 40.0	② 40.7	② 42.9	② 35.0	② 33.3	② 40.4
協調性	③ 30.4	③ 30.0	① 33.3	③ 32.0	① 60.0	③ 27.1	③ 33.3	③ 20.0	② 33.3	③ 30.3
応用力・適応力	10.9	③ 30.0	① 33.3	28.0	20.0	16.9	20.6	15.0	② 33.3	20.2
自己啓発・向上意欲	15.2	17.5	① 33.3	16.0	0.0	18.6	14.3	③ 20.0	② 33.3	16.9
健康	19.6	5.0	① 33.3	16.0	20.0	11.9	11.1	③ 20.0	16.7	13.5
自発性	15.2	5.0	0.0	0.0	20.0	13.6	9.5	15.0	0.0	10.1
辛抱強さ	2.2	5.0	0.0	4.0	0.0	3.4	4.8	0.0	0.0	3.4
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

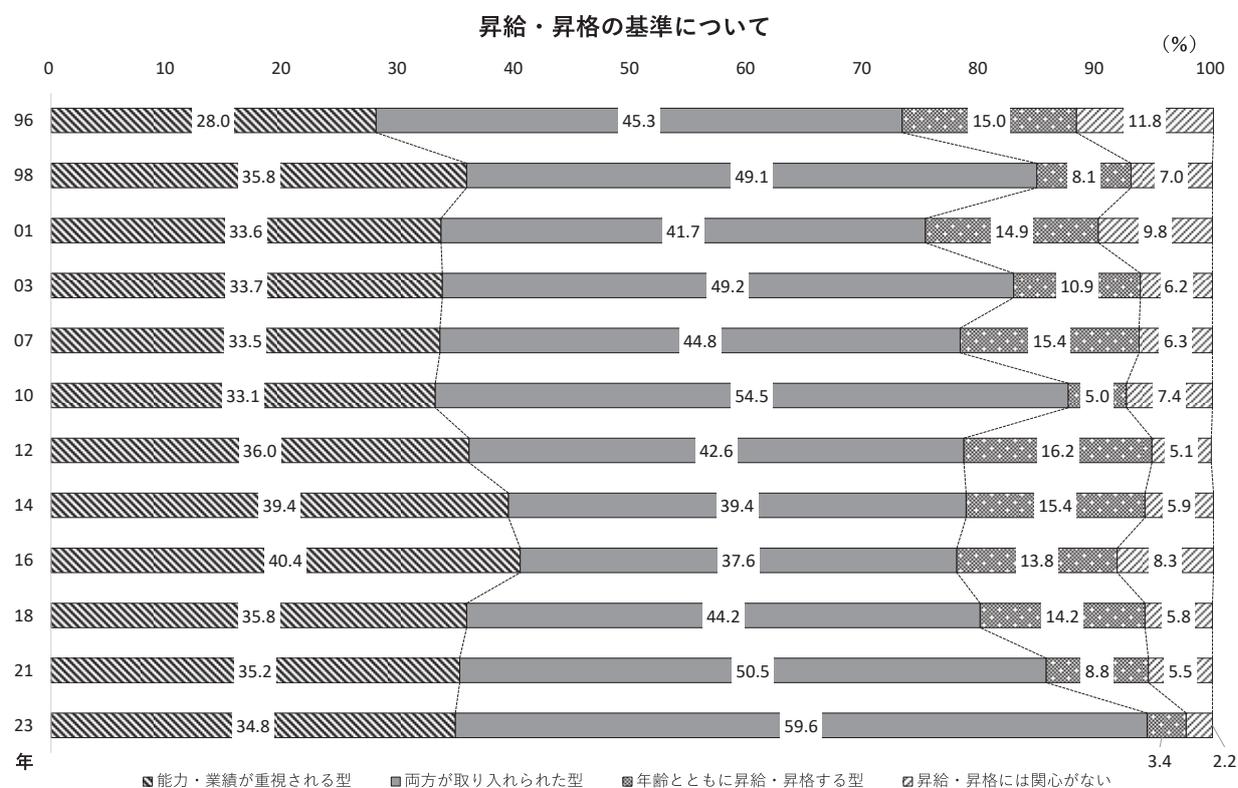
3. 仕事と働き方について

(1) 昇給・昇格の基準について

- ・「能力・業績と年功序列の両方が取り入れられた型」がトップ

新入社員が望んでいる昇給・昇格の基準は、「能力・業績と年功序列の両方が取り入れられた型」がトップとなり、「能力・業績が重視される型」が続いた。

今回調査では、「両方取り入れられた型」の割合が6割に迫っており、過去最多となった。能力発揮による評価を期待する一方で、コロナ禍のような行動制限が起これうる環境を踏まえ、バランスの取れた昇給・昇格を望む層が増加したとみられる。



(単位：%)

	性別			学卒別			出身学部・学科別			合計
	男性	女性	回答しない	高校・高専	専門学校・短大	大学・大学院	文系	理系	その他	
両方が取り入れられた型	① 60.9	① 60.0	① 33.3	① 56.0	① 40.0	① 62.7	① 57.1	① 65.0	① 66.7	① 59.6
能力・業績が重視される型	② 30.4	② 40.0	① 33.3	② 40.0	① 40.0	② 32.2	② 38.1	② 25.0	② 33.3	② 34.8
年齢とともに昇給・昇格する型	6.5	0.0	0.0	4.0	0.0	3.4	3.2	5.0	0.0	3.4
昇給・昇格には関心がない	2.2	0.0	33.3	0.0	20.0	1.7	1.6	5.0	0.0	2.2

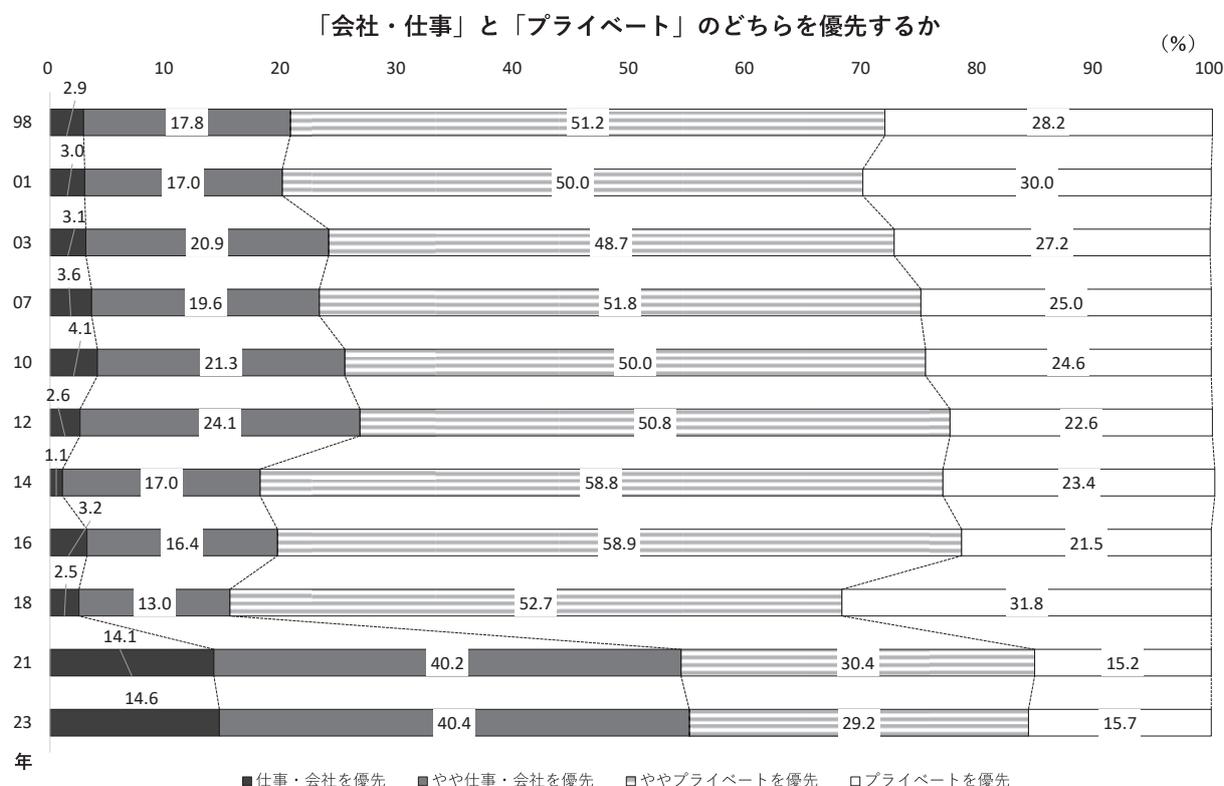
(2) 仕事に対する考え方

①「会社・仕事」と「プライベート」のどちらを優先するか

・「会社・仕事優先型」が5割超

「会社・仕事」と「プライベート」のどちらを優先するかについて尋ねたところ、「やや会社・仕事を優先」がトップ、次いで「ややプライベートを優先」となった。

2018年以前は「プライベート優先型」の割合が全体の8割近かったものの、前回調査に引き続き、今回調査でも「会社・仕事優先型」が5割を超える結果となった。コロナ禍の影響による雇用環境の不透明感が漂う中、就職活動を行ったことで、生計を立てるために仕事を優先しようとする意識が働いたものとみられる。



(単位：%)

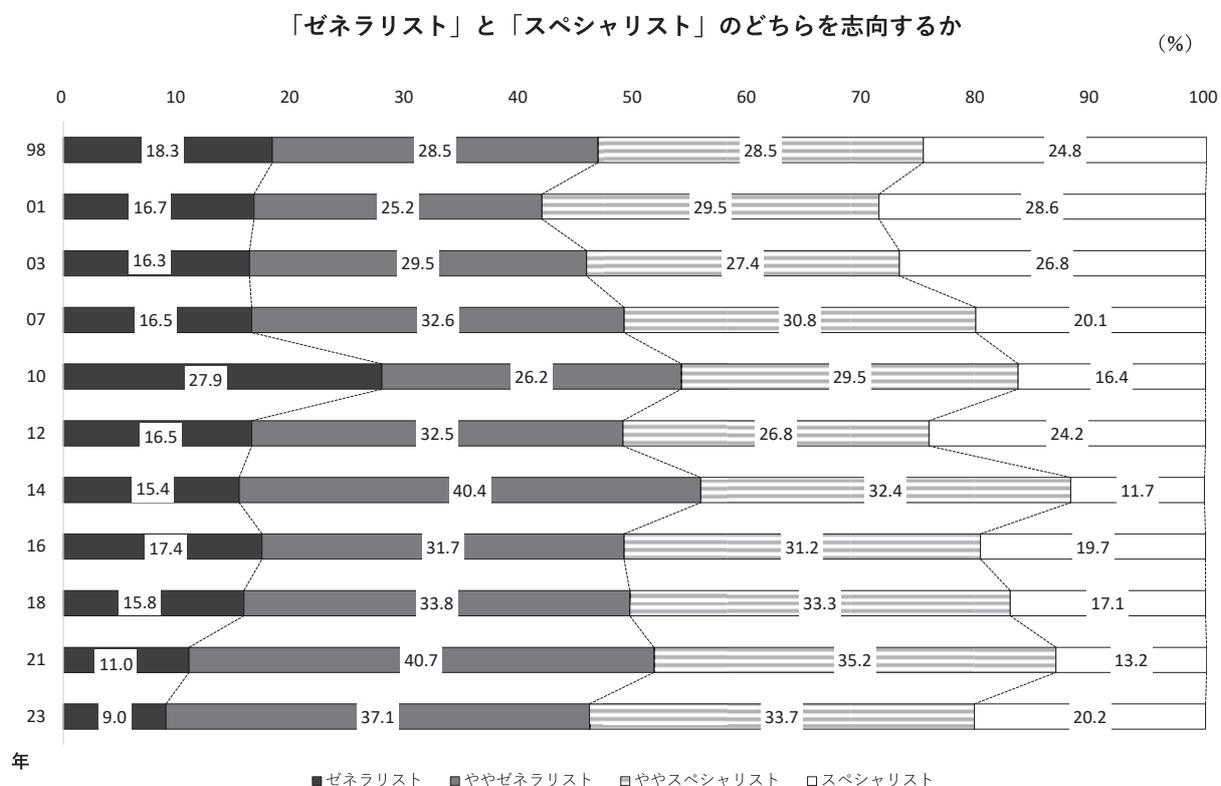
	性別			学卒別			出身学部・学科別			合計
	男性	女性	回答しない	高校・高専	専門学校・短大	大学・大学院	文系	理系	その他	
やや会社・仕事を優先	① 41.3	① 42.5	0.0	① 52.0	② 20.0	① 37.3	① 34.9	① 65.0	16.7	① 40.4
ややプライベートを優先	② 26.1	② 32.5	② 33.3	16.0	① 40.0	② 33.9	② 31.7	② 20.0	② 33.3	② 29.2
プライベートを優先	17.4	10.0	① 66.7	② 20.0	② 20.0	13.6	14.3	10.0	① 50.0	15.7
会社・仕事を優先	15.2	15.0	0.0	12.0	20.0	15.3	19.0	5.0	0.0	14.6

②「ゼネラリスト」と「スペシャリスト」のどちらを志向するか

- ・「スペシャリスト」志向がやや強まる
- ・男女別では、男性は「スペシャリスト」志向、女性は「ゼネラリスト」志向

働き方のスタイルとして、幅広い業務をこなす「ゼネラリスト」か、専門分野に秀でた「スペシャリスト」のどちらを志向するかについて尋ねたところ、「ややゼネラリスト」がトップとなり、次いで「ややスペシャリスト」となった。ゼネラリスト、スペシャリストの志向別にみると、前回調査と比べ、スペシャリスト志向の割合がやや高まった。

男女別にみると、男性はスペシャリスト志向、女性はゼネラリスト志向がそれぞれ 6 割程度となっており、男女の間でばらつきがみられた。



(単位：％)

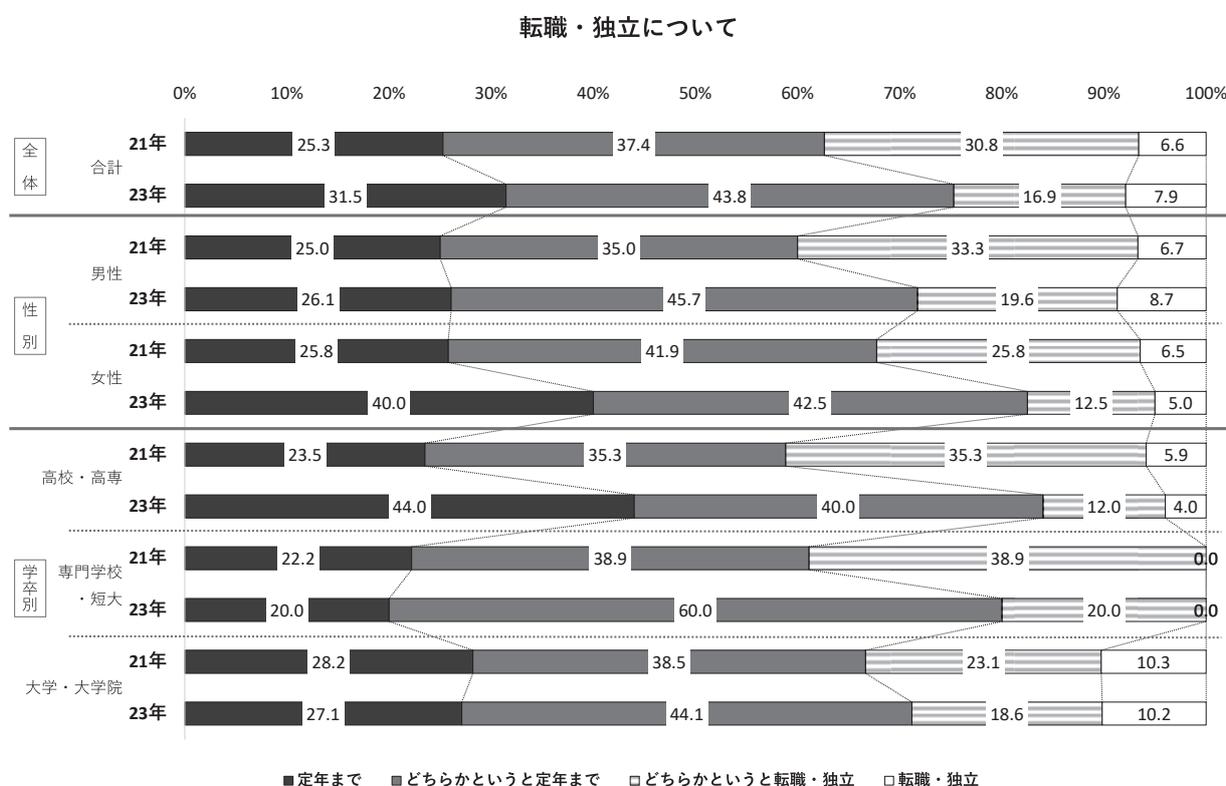
	性別			学卒別			出身学部・学科別			合計
	男性	女性	回答しない	高校・高専	専門学校・短大	大学・大学院	文系	理系	その他	
ややゼネラリスト	② 34.8	① 40.0	① 33.3	② 28.0	① 40.0	① 40.7	① 38.1	① 45.0	0.0	① 37.1
ややスペシャリスト	① 37.0	② 30.0	① 33.3	① 36.0	② 20.0	② 33.9	② 31.7	② 40.0	② 33.3	② 33.7
スペシャリスト	23.9	15.0	① 33.3	20.0	② 20.0	20.3	22.2	5.0	① 50.0	20.2
ゼネラリスト	4.3	15.0	0.0	16.0	② 20.0	5.1	7.9	10.0	16.7	9.0

③ 転職・独立について

- ・「終身雇用」志向の割合は 75%を超える
- ・男女別では、男性の方が「転職・独立」志向が強い

転職・独立に対する考え方について尋ねたところ、「どちらかという而定年まで」がトップとなり、次いで「定年まで」となった。両回答を合計した「終身雇用」志向は 75%を超えており、「転職・独立」志向を大きく上回っている。コロナ禍の影響の残る不安定な雇用環境を踏まえ、安定した雇用を望む考え方が増えたとみられる。

男女別でみると、男性の方が「転職・独立」志向が強く、学卒別では、大学・大学院卒で「転職・独立」志向が他より高い傾向にある。



(単位：%)

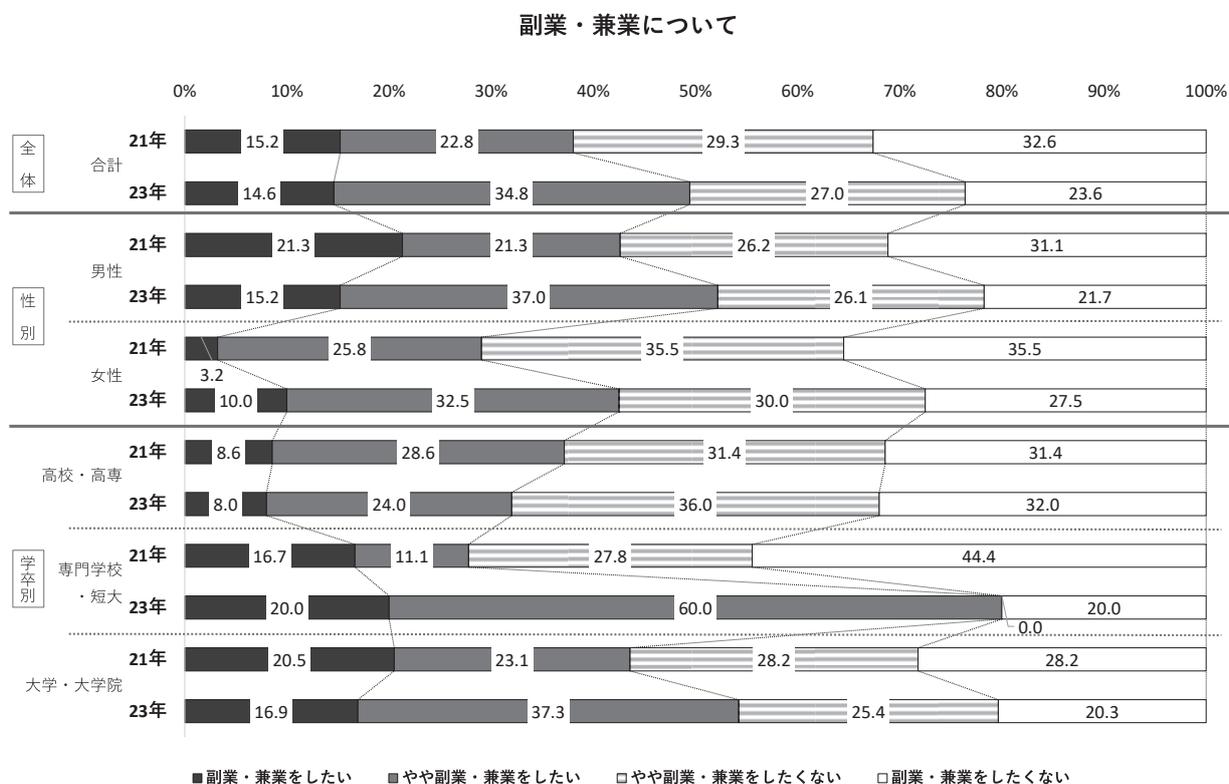
	性別			学卒別			出身学部・学科別			合計
	男性	女性	回答しない	高校・高専	専門学校・短大	大学・大学院	文系	理系	その他	
どちらかという而定年まで	① 45.7	① 42.5	① 33.3	② 40.0	① 60.0	① 44.1	① 41.3	① 50.0	① 50.0	① 43.8
定年まで	② 26.1	② 40.0	0.0	① 44.0	② 20.0	② 27.1	② 36.5	② 20.0	② 16.7	② 31.5
どちらかという転職・独立	19.6	12.5	① 33.3	12.0	② 20.0	18.6	17.5	15.0	② 16.7	16.9
転職・独立	8.7	5.0	33.3	4.0	0.0	10.2	4.8	15.0	16.7	7.9

④副業・兼業について

- ・「副業・兼業」を志向する割合は概ね半数
- ・男女別では、男性の方が「副業・兼業」志向が強い

副業・兼業に対する考え方について尋ねたところ、「やや副業・兼業をしたい」の割合がトップとなり、次いで「やや副業・兼業をしたくない」となった。なお、「副業・兼業をしたい」と「やや副業・兼業をしたい」を合わせた「副業・兼業」志向の割合は概ね半数となっており、他業への興味・関心が高まっている一方で、本業の仕事を優先するべきとの思いが拮抗しているとみられる。

男女別でみると、「副業・兼業」を志向する割合は、男性の方が高く、学卒別では、専門学校・短大卒が高い。



(単位: %)

	性別			学卒別			出身学部・学科別			合計
	男性	女性	回答しない	高校・高専	専門学校・短大	大学・大学院	文系	理系	その他	
やや副業・兼業をしたい	① 37.0	① 32.5	① 33.3	24.0	① 60.0	① 37.3	① 36.5	② 35.0	② 16.7	① 34.8
やや副業・兼業をしたくない	② 26.1	② 30.0	0.0	① 36.0	0.0	② 25.4	② 25.4	① 40.0	0.0	② 27.0
副業・兼業をしたくない	21.7	27.5	0.0	② 32.0	② 20.0	20.3	23.8	15.0	① 50.0	23.6
副業・兼業をしたい	15.2	10.0	66.7	8.0	20.0	16.9	14.3	10.0	33.3	14.6

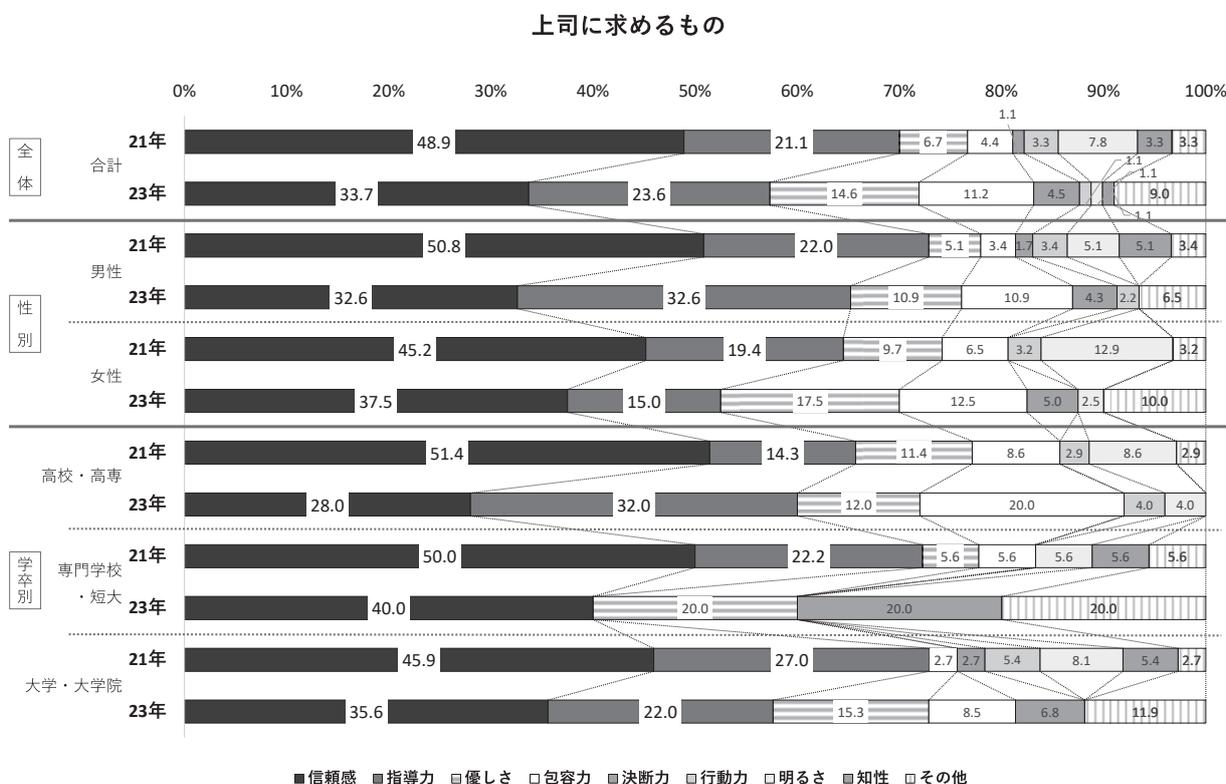
4. 上司について

(1) 上司に求めるもの

- ・「信頼感」、「指導力」、「優しさ」などが上位
- ・男女別では、男性はリーダーシップ面、女性はメンタル面の支えを求める傾向

職場で身近に接することの多い上司に対し、新入社員が求めているものを尋ねたところ、「信頼感」が 33.7%でトップとなり、次いで「指導力」、「優しさ」、「包容力」などの順となった。前回調査に比べ、「優しさ」や「包容力」の割合が伸びており、心理的安全性を求める傾向が強くなっている。

男女別でみると、男性は上司に対して「指導力」などリーダーシップ面を、女性は「信頼感」や「優しさ」、「包容力」などメンタル面での支えを求める傾向がみられた。



(単位：%)

	性別			学卒別			出身学部・学科別			合計
	男性	女性	回答しない	高校・高専	専門学校・短大	大学・大学院	文系	理系	その他	
信頼感	① 32.6	① 37.5	0.0	② 28.0	① 40.0	① 35.6	① 30.2	① 50.0	② 16.7	① 33.7
指導力	① 32.6	③ 15.0	0.0	① 32.0	0.0	② 22.0	② 22.2	② 20.0	① 50.0	② 23.6
優しさ	③ 10.9	② 17.5	① 33.3	12.0	② 20.0	③ 15.3	③ 20.6	0.0	0.0	③ 14.6
包容力	③ 10.9	12.5	0.0	③ 20.0	0.0	8.5	11.1	③ 10.0	② 16.7	11.2
決断力	4.3	5.0	0.0	0.0	0.0	6.8	6.3	0.0	0.0	4.5
行動力	2.2	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	② 16.7	1.1
明るさ	0.0	2.5	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	1.1
知性	0.0	0.0	① 33.3	0.0	② 20.0	0.0	0.0	5.0	0.0	1.1
厳しさ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	6.5	10.0	33.3	0.0	20.0	11.9	9.5	10.0	0.0	9.0

5. 自分自身のことについて

(1) 仕事をするに当たり強化したいこと

・「専門知識・技術」、「コミュニケーション能力」が上位

仕事をするに当たり強化したいこと(3項目まで選択)について尋ねたところ、「専門知識・技術」が50.6%でトップ、次いで「コミュニケーション能力」が47.2%となり、他の項目を大きく引き離れた。

男女別に比べると、男性では「交渉力」、「論理的思考力」、女性では「ストレス耐性」、「企画力」、「チャレンジ精神」を強化したいとする割合が高かった。

学卒別の特徴として、高校・高専卒では「学習能力」、専門学校・短大卒では「コミュニケーション能力」、大学・大学院卒では「主体性」を強化したいとする割合が高かった。

出身学部・学科別で比べると、文系では「交渉力」、「学習能力」、「企画力」を強化したいとする割合が高く、理系は、「主体性」、「ストレス耐性」、「ITスキル」を強化したいとする割合が高かった。

仕事をするに当たり強化したいこと（3つまで選択）

(単位：%)

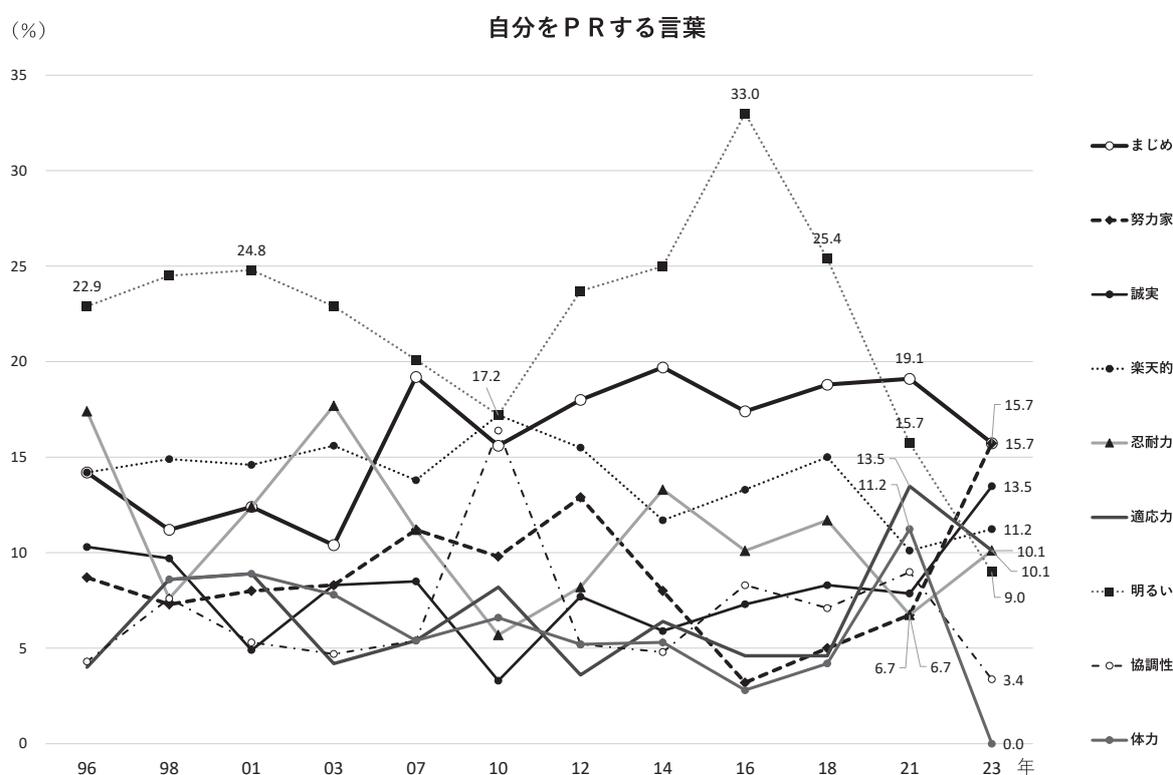
	性別			学卒別			出身学部・学科別			合計
	男性	女性	回答しない	高校・高専	専門学校・短大	大学・大学院	文系	理系	その他	
専門知識・技術	① 58.7	② 42.5	② 33.3	① 52.0	20.0	① 52.5	① 47.6	① 50.0	① 83.3	① 50.6
コミュニケーション能力	② 50.0	① 45.0	② 33.3	③ 40.0	① 80.0	② 47.5	② 44.4	① 50.0	② 66.7	② 47.2
交渉力	③ 32.6	20.0	① 66.7	28.0	② 40.0	27.1	③ 33.3	20.0	0.0	③ 28.1
学習能力（他者の経験から学ぶ力）	26.1	③ 27.5	0.0	② 44.0	0.0	20.3	27.0	15.0	③ 50.0	25.8
主体性	23.9	25.0	② 33.3	12.0	20.0	③ 30.5	23.8	③ 30.0	16.7	24.7
ストレス耐性	13.0	22.5	② 33.3	16.0	② 40.0	16.9	15.9	25.0	16.7	18.0
企画力	10.9	20.0	0.0	32.0	0.0	8.5	15.9	5.0	33.3	14.6
語学力	15.2	12.5	0.0	20.0	20.0	10.2	12.7	15.0	16.7	13.5
ITスキル	8.7	17.5	② 33.3	24.0	20.0	8.5	11.1	25.0	0.0	13.5
チャレンジ精神	8.7	20.0	0.0	12.0	0.0	15.3	15.9	10.0	0.0	13.5
論理的思考力	13.0	5.0	0.0	8.0	0.0	10.2	7.9	5.0	33.3	9.0
素直さ	6.5	2.5	0.0	0.0	0.0	6.8	4.8	5.0	0.0	4.5
その他	6.5	10.0	0.0	0.0	0.0	11.9	9.5	5.0	0.0	7.9

(2) 自分をPRする言葉

・堅実さをPR、「まじめ」、「努力家」、「誠実」が上位に

新入社員に、自分自身をPRする言葉について尋ねたところ、トップが同率で「まじめ」、「努力家」、次いで「誠実」の順となった。従前上位にあった「明るい」が大きく順位を下げたほか、「体力」は皆無となった。今回調査では、回答は分散傾向にあるものの、外面的な強さではなく、内面的な堅実さをPRする傾向がうかがえた。

男女別では、女性は自己をPRする言葉として「努力家」、「まじめ」を挙げる割合が高く、2項目で半数を占めた。一方、男性はキーワードが分散し、女性に比べ「誠実」、「忍耐力」、「楽天的」、「明るい」などを挙げる割合が高かった。



(単位：%)

	性別			学卒別			出身学部・学科別			合計
	男性	女性	回答しない	高校・高専	専門学校・短大	大学・大学院	文系	理系	その他	
まじめ	10.9	② 22.5	0.0	③ 12.0	① 20.0	① 16.9	① 22.2	0.0	0.0	① 15.7
努力家	4.3	① 30.0	0.0	① 28.0	0.0	② 11.9	② 14.3	② 20.0	② 16.7	① 15.7
誠実	① 17.4	③ 10.0	0.0	② 20.0	0.0	② 11.9	③ 12.7	③ 15.0	② 16.7	③ 13.5
楽天的	③ 13.0	③ 10.0	0.0	③ 12.0	0.0	② 11.9	11.1	10.0	② 16.7	11.2
忍耐力	② 15.2	5.0	0.0	8.0	① 20.0	10.2	6.3	① 25.0	0.0	10.1
適応力	10.9	③ 10.0	0.0	③ 12.0	0.0	10.2	9.5	10.0	② 16.7	10.1
明るい	③ 13.0	2.5	① 33.3	8.0	① 20.0	8.5	9.5	0.0	① 33.3	9.0
協調性	4.3	0.0	① 33.3	0.0	① 20.0	3.4	1.6	10.0	0.0	3.4
体力	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	10.9	10.0	33.3	0.0	20.0	15.3	12.7	10.0	0.0	11.2

6. 社会人となり、改めて感じること(自由回答)

最後に、「社会人となり、改めて感じていること」を自由に述べていただいた。今回も社会人としての責任感に関する記述が多く、学生と社会人との環境の違いに戸惑いながらも、決意を新たにしている様子が見られた。

- 学生の時とは大きく異なるため、責任をもって行動し、学ぶ姿勢を忘れずに成長していきたい。(高校・高専卒、女性)
- 社会人は自分自身の行動に責任をしっかりと持って行動しなければいけないと思った。基本を見直し、社会や会社に貢献していけるようになりたい。(高校・高専卒、男性)
- 組織の一員として責任をもたなければならないと感じている。(大学・大学院卒、男性)
- お金を稼ぐには責任のある仕事をしなければならない。(大学・大学院卒、男性)
- 地域に対する責任を感じている。お客さまのために多くの知識をつけたい。(大学・大学院卒、男性)

人間関係、生活の変化に関しては、これまでの対等な仲間づきあいから組織の上下関係、あるいは自由な生活から仕事中心の生活への変化に戸惑っている様子が見られた。

- あいさつや気遣い、礼儀が足りていない。(高校・高専卒、女性)
- 友人と予定が合わなくなったので、学生のときより休日が充実していない。(専門学校・短大卒、女性)
- 覚えることが多くて大変である。(専門学校・短大卒、女性)
- 新しい環境に適応するにあたって、初対面の人との会話の仕方や、そこからの仲の深め方が難しいと感じている。(大学・大学院卒、女性)
- 仕事の疲れが1日で消えない。わからないことだらけで仕事が不安だ。(大学・大学院卒、女性)
- 全ての行動に責任が伴うため、常に意識が必要で疲れる。(大学・大学院卒、男性)
- 自ら考えて計画し、それを実行する難しさや大切さを感じている。(大学・大学院卒、男性)
- 自分1人が持つ責任の重さを感じる。プライベートでもうかつな行動はできないという点ではON/OFFが少し難しく感じた。(大学・大学院卒、男性)

一方、環境の変化に悩みながらも、新入社員らしい初々しきで社会人として踏み出していかうとする姿勢もみられた。

- 失敗やわからないこともまだまだあるが、少しずつ覚えて自分や会社のために頑張りたい。
(高校・高専卒、男性)
- 慣れない環境に毎日緊張しているが、コミュニケーションをとりながら少しでも早く会社の目標に貢献できるようにしたい。
(大学・大学院卒、女性)
- 上司や職場の仲間たちが手助けしてくれるように、将来的に同じように仲間たちへサポートを行える人材になりたい。
(大学・大学院卒、女性)
- 給与に見合う仕事をするの大変さを知り、頑張ることが山積みだと感じた。
(大学・大学院卒、男性)
- 指示されたことだけでなく、自分からやることを見つけなければならない。
(大学・大学院卒、女性)
- 自主的に周囲の人と意思疎通をはかることがとても大切。
(大学・大学院卒、女性)
- プレッシャーと疲労がうまく処理できていない未熟な点を早く改善し、成長したい。
(大学・大学院卒、女性)

そのほか、自己の反省のほか、我々先輩社会人が考えさせられる意見もみられた。

- 学校とは違い失敗出来ないことを感じた。学校と会社での過ごし方が違うと感じた。
(高校・高専卒、女性)
- お金稼ぐのは大変。
(専門学校・短大卒、性別無回答)
- 会社も学ぶ場所なのだということ。
(大学・大学院卒、男性)
- 自分で選択しなければいけないことが増えた。
(大学・大学院卒、女性)
- どんなに忙しくても、体調を万全にすることが大事だと思った。
(大学・大学院卒、女性)
- 新しい環境で多くの人たちとの関わる力、責任感、協調性全て重要であることを改めて感じた。学生時代に資格取得をしておけばよかったと後悔している。
(大学・大学院卒、女性)

以上

発行月 2023年 6 月

発行 株式会社プロクレアホールディングス
青森市橋本一丁目9番30号
電話 017 (777) 5111

作成 あおり創生パートナーズ株式会社
青森市新町二丁目2番7号
電話 017 (718) 3161

印刷 株式会社サンエイ
青森市妙見三丁目2番19号
電話 017 (738) 0040

